

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 9 月 25 日 11:34AM 更新

[日経平均・TOPIX]

【当面の想定レンジ】(日経平均) 49,500～70,000 円
(TOPIX) 3400～4200

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】(NY ダウ) 45,000～54,000 ドル
(S&P500) 6300～7800

[ナスダック 100]

【当面の想定レンジ】(ナスダック 100) 23,500～30,800
(ナスダック総合) 20,700～27,300

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 140.000～161.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 98.000～102.720

エリオット波動とは

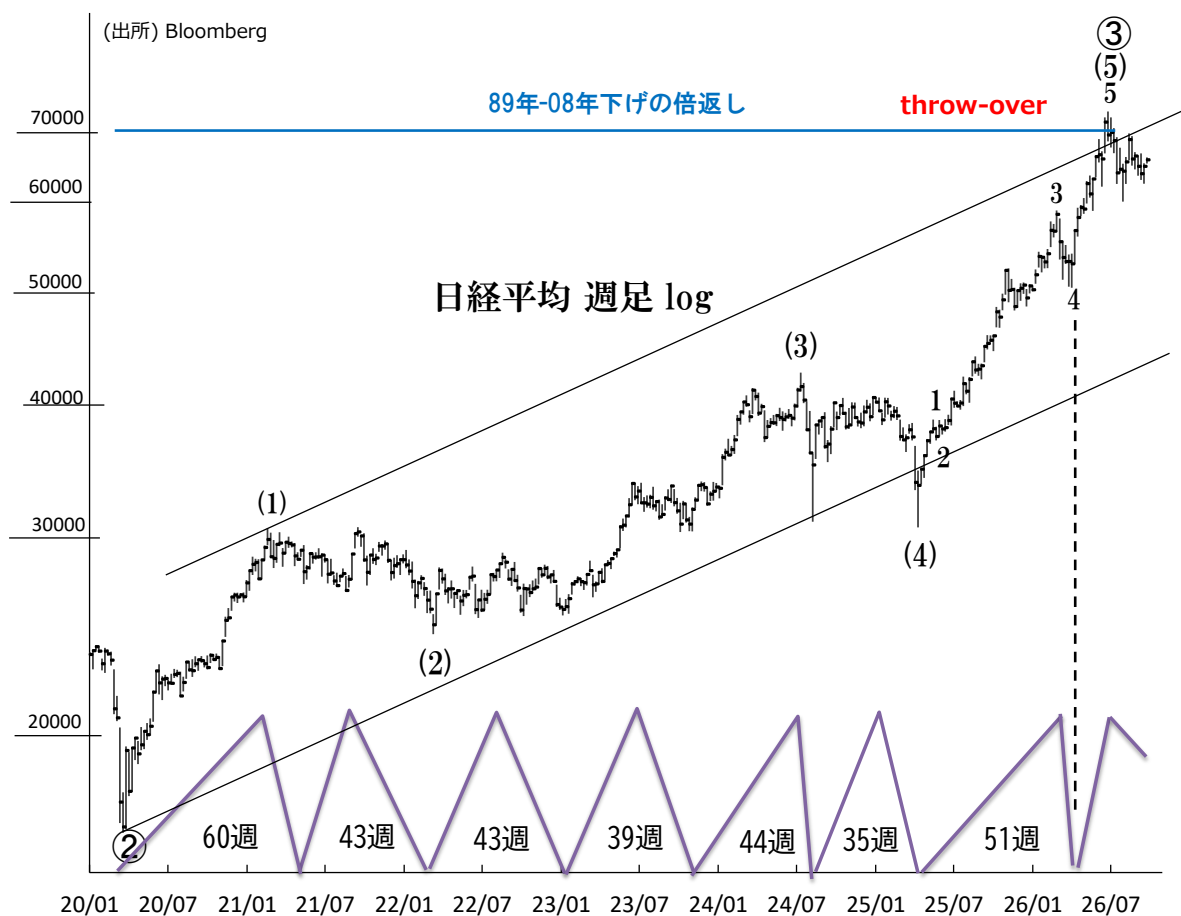
株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は 5 つの上昇波と 3 つの下降波（合計 8 つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均・TOPIX



【週足 エリオット波動分析】

72,831 円(6/22 高値)以来、プライマリー第④波の弱気相場が進行中とみています。

3 月末(50,558 円)から始まった現行週次サイクルは、弱気相場に特有の「レフト・トランスレーション(右肩下がり)」になる公算が大きいでしょう(上昇期間よりも下げ期間が長くなります)。

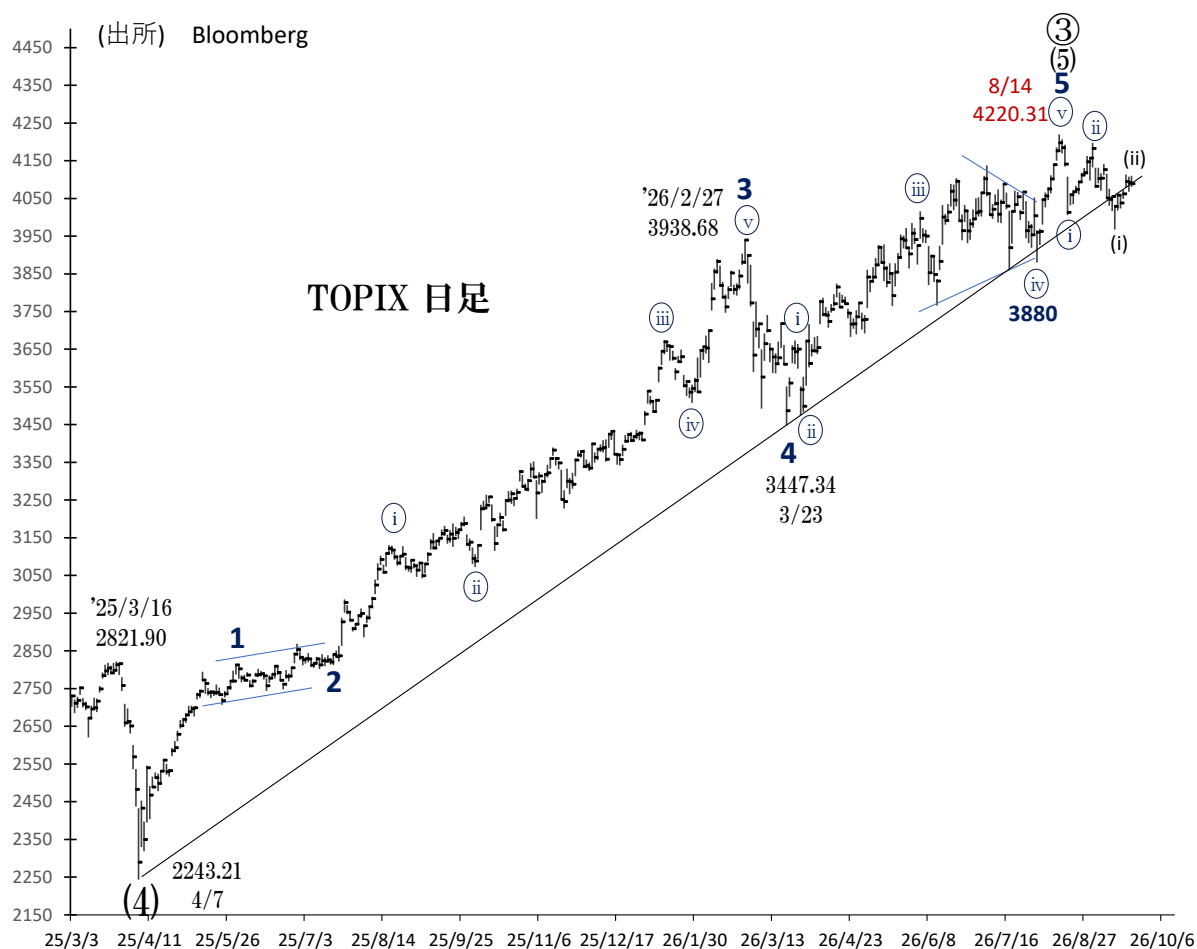
現行サイクルの上昇期間はフィボナッチ 13 週(両端入れ)の長さでした。サイクル全体が 37 週～53 週(※1)ということから、6 月 22 日(サイクルトップ)からの通算下げ期間は、24 週～40 週(5 カ月～8 カ月)と推定されます。

換言すると、日経平均は今年 11 月～来年 3 月まで下値模索の展開が続くと予想されます。

「レフト・トランスレーション」のパターンでは、サイクル終点の安値がサイクル始点安値を通常は下回りません。つまり、少なくとも 50,558 円を下回るまで(※2)現行週次サイクルは終わらないでしょう。

(※1)週次サイクル期間(2020 年以降の補正後)は 45 週±8 週(37 週～53 週)。

(※2)サイクルの高値から安値まで、下げ率は 10%～26%(平均 17%)。今サイクル安値が 50,558 円未満であると仮定すると、現行サイクルの下げ率は 30%を超えることになる。



[TOPIX]

日経平均のプライマリー③波のピークは6月22日ですが、そこからTOPIXはおおよそ2カ月遅れ、8月14日に4220でピークを付けました(未確認による天井打ちとみられます)。

8月天井からプライマリー④波による調整が始まったとみられます。その調整規模は、プライマリー第②波(2018年1月～20年3月)の下げ率(37.2%)と同等か、それ以上の大きさになると思われます。

8月高値から足元まで「One-two, one-two」で下げているとみられます。この見方によると、近々マル iii 波における第 iii 波(サード・オブ・サード)の強い下げがスタートし、3880(8/3 安値)を早々に打診することでしょう。

一方、マル ii 波が「フラット」を形成中と見做すことも可能です。この場合は、短期的な上値試しとなりますが、その後にマル iii 波の下落がスタートする見込みです。

なお 3967(9/11 安値)を下回る動きが、弱基調再開の合図になります。



[日経平均・120 分足]

69,608 円(8/14 高値)からマル iii 波の下落が進行中とみられます。マル iii 波は、60,448 円(7/29 安値)を明確に下回る強い下げ波動です。

今のところ、64,609 円(8/25 安値)からの波動カウントには、いくつかオプションが存在します。

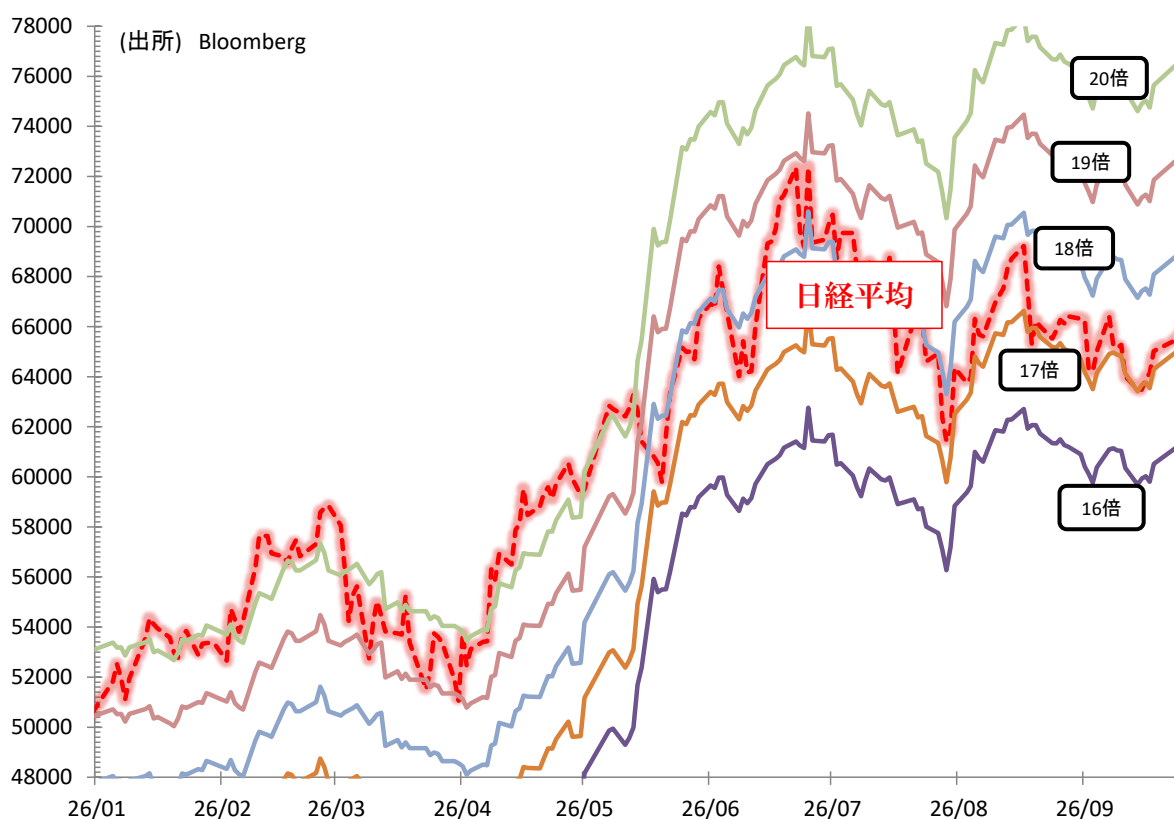
上チャートでは、(ii)波のパターンを仮に「ランニング・フラット」としています。これによると、62,726 円(9/14 安値)からの上昇は(ii)-c 波であり、その想定レンジとして[66,167 円-66,519 円]をあげることができます。

9月24日は一時66,249円まで上昇、想定レンジに入りました。この日の上げ幅は一時1000円を超えましたが、大引けはこの日の安値圏でした。(ii)波は完成したかもしれません。

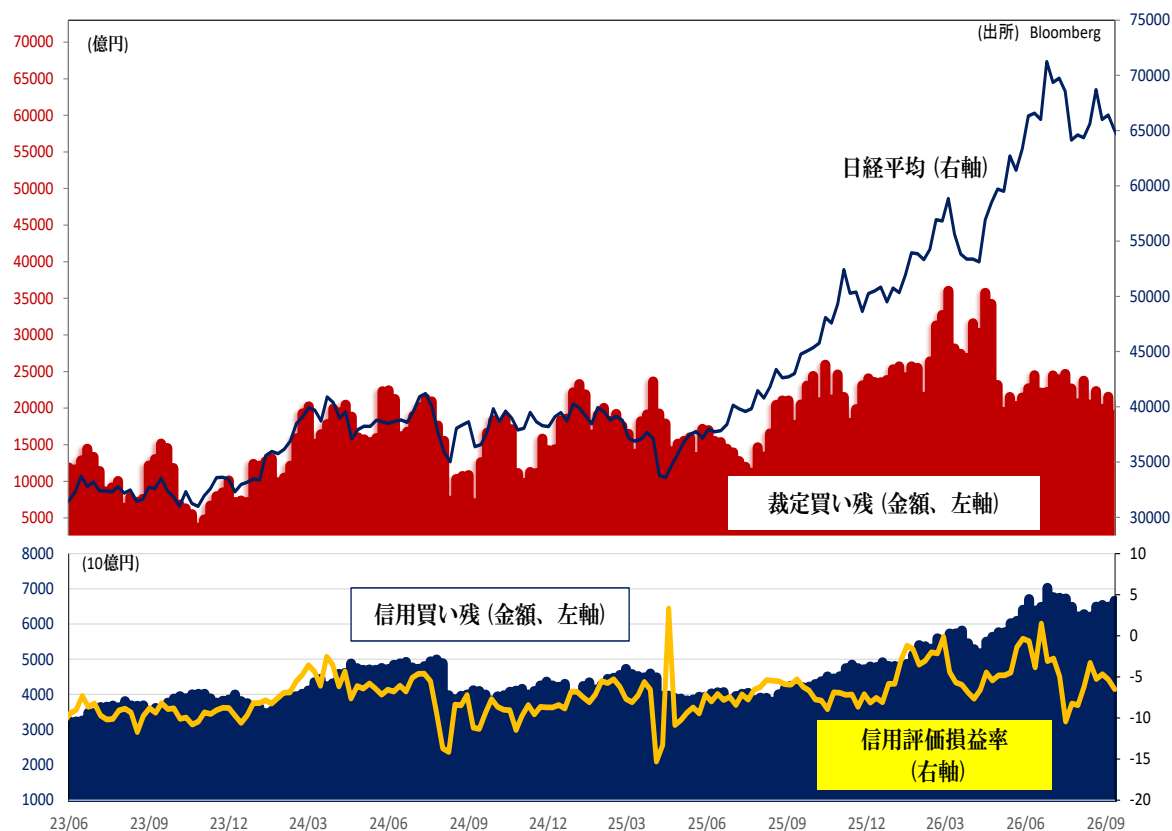
この見方が正しければ、近々マル iii 波中(iii)波(サード・オブ・サード)の下げがスタートするでしょう。

「予想 PER 別の日経平均水準」

9月24日の日経平均予想PERは17.12倍、予想EPSは3826円。過去最高の予想EPSは3922円(6/25)です。



[裁定買い残と信用買い残] (9月11日時点)



NY ダウ・S&P500



【NY ダウ 30 日足 エリオット波動分析】

半導体株とAI関連株への集中投資により、ナスダック総合指数とナスダック100は9月22日に最高値を更新しました。しかしハイテク株の上昇にNYダウ30はまったく追随できていませんし、ダウ運輸株は足元で4カ月ぶり安値を付けています。

NYダウは、4月下旬からの「メガホントップ」天井パターンから下放れが続いています。

9月24日は一時51,124ドルまで下げ、およそ3カ月ぶり安値を更新しました。

短期的にも、200日MA(50,180ドル、9/24現在)、49,900ドル(3月安値からの上昇の半値押し)などを試す可能性があります。



【S&P500 日足 エリオット波動分析】

7816(8/13 高値)を以て、25 年 4 月安値(4835)以来の一連の 5 波動構成は、すべて完了したとみられます。この見方通りなら、今後の下落リスクは—おそらく一般に思われている以上に—高いでしょう。

9 月 22 日には一時 7782 まで上昇し、8/13～9/16 の下げ幅の 88.8%(≒89%、89 はフィボナッチ数)を戻しました。8 月高値に次ぐ二番天井を付けたとみられます。

7507(9/16 安値)を下回ると、上記ダブル・トップが確認され、その後の下げ基調が強まるでしょう。次はレツサーディグリー第 4 波安値の 7313(7/29 安値)への下押しの動きが想定されます。

SOX 指数

7 月 29 日安値(10,445)からの上昇は、第(ii)波リバウンドとみられます。

このカウントによると、近々第(iii)波の下落トレンドがスタートする見込みです。第(iii)波の下落スケールは、第(i)波(28.7%下げ)を凌駕するものになるでしょう。下落リスクは高く、10 月中にも 9000-9500 へ下振れる可能性があります。

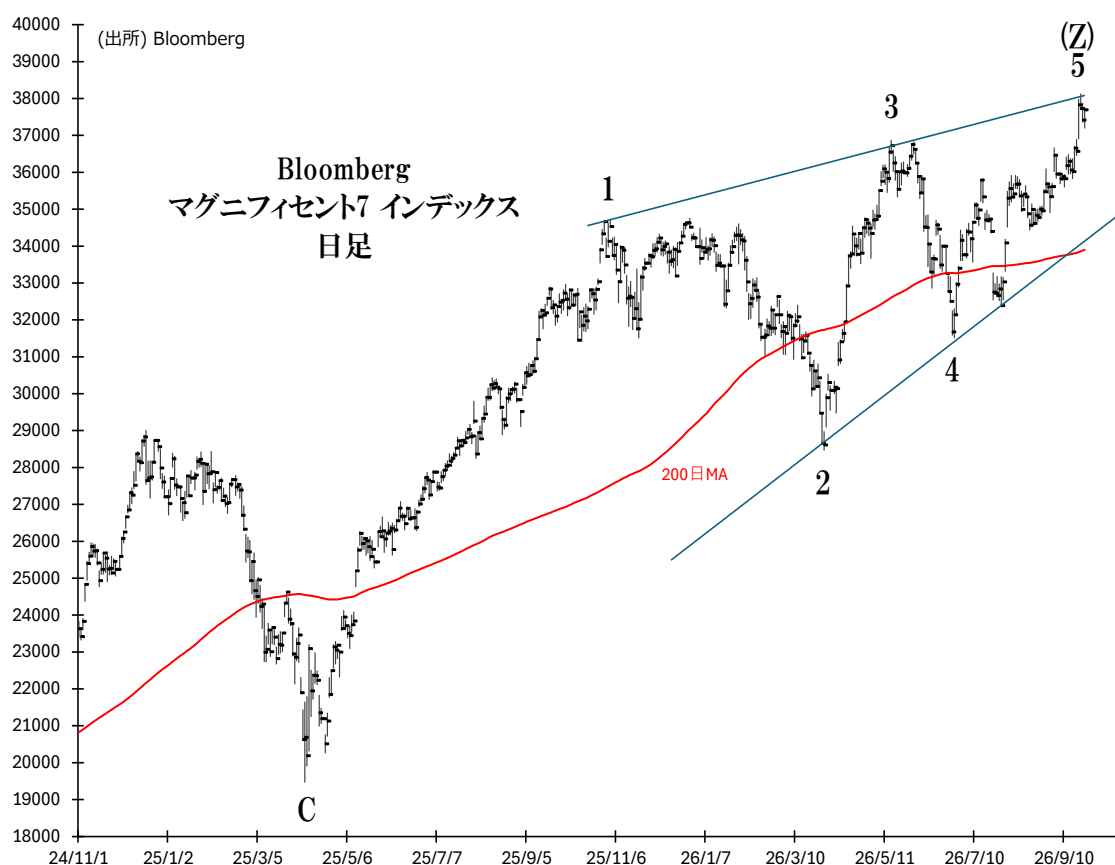


Bloomberg マグニフィセント 7 インデックス

ナスダック、ナスダック 100 と同じ秋分(9 月 22 日)に、マグ 7 も最高値を付けました。

もっとも、高値更新は強気見通しへの変更を意味しません。

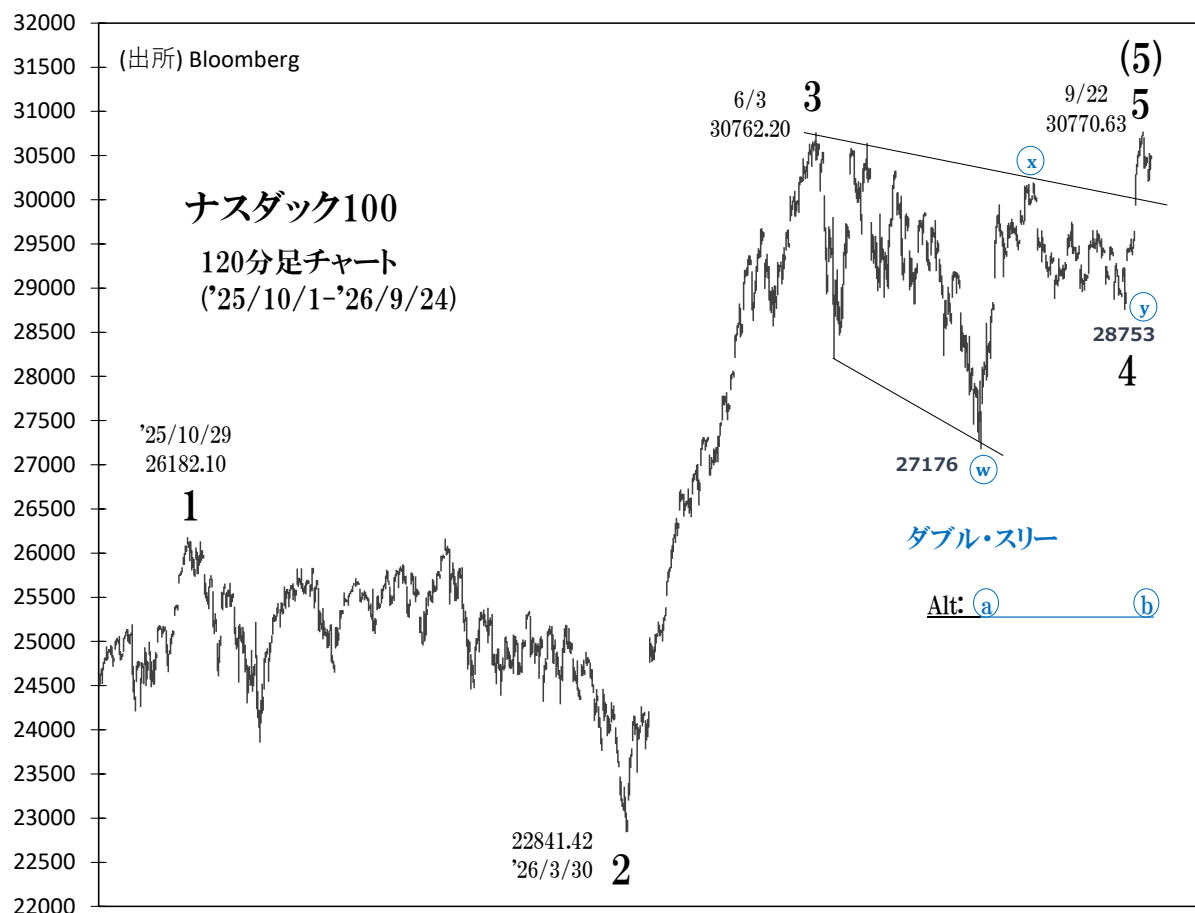
25 年 4 月安値からの上昇は天井パターンの「ウェッジ」を形成していますが、直近高値はパターン上限に達しました。天井を付けたか、付けつつあると思われます。



[ダウ輸送株平均]



ナスダック 100



【ナスダック 100 時間足 エリオット波動分析】

9月22日に高値を更新したため、波動カウントを変更します。

25年4月安値(16,542)から展開している上昇波は、インターミディエイト第(5)波に位置付けられ、そのうち6月高値からのマイナー第4波は、28,753(9/16 安値)で完了したと思われます。マイナー第2波の「ダブル・ジグザグ」に対し、マイナー4波は「ダブル・スリー」を形成しました。

28,753 からの上昇はマイナー5波に位置付けられ、それが終わるとインターミディエイト(5)波が完成します。29,647 まで下げると9月18日-21日のマドを埋めますが、それはナスダック 100 天井打ちの合図です。

(オルタナティブカウント、Alt)

マイナー第4波が「フラット」になるとみれば、27,176(7/29 安値)からの上昇はマル b 波に相当します。30,195 を割ると、マル b 波の完成及び、マル c 波の下落入りが示唆されます。マル c 波は2万7000 処で底入れし、それを以て第4波が完成します。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

日米実質金利差から導かれる米ドル/円の水準は、現在 1 ドル=148 円程度です(直近の米金利急騰に伴い金利差が拡大しました)。

さらに、購買力平価からの妥当な円相場は OECD 算出の GDP ベースで 1 ドル=97 円～103 円です。短期的にも長期的にも、日本円の過小評価が続いています。

163.944 円(7/23)を以て通算 5 年間の円安⑤波[ウェッジ]は完了した、とみられます。ウェッジ内の副次波は、次のように相互に美しい比率を示しています。

(C)波の長さ÷(A)波の長さ=0.703、(E)波の長さ÷(C)波の長さ=0.703

この先は数年間にわたる円高になるでしょう。上記のように、長らく日本円はその実力に比べ過小評価されてきましたが、今後は実力に見合った適正な水準が模索されていくと思われます。

7 月末の日米協調円買い介入は、円安の限界水準(160 円台前半)を明示しており、もはや積極的な円売りの動機は失われたといえます。今後は次第に円高傾向が強まっていくでしょう。

筆者は今後数年内(2028 年?)に、1 ドル=120 円-125 円を付けてもおかしくない、とみています。それは歴史的なレンジ[80 円-160 円]の中値に相当し、かつて「黒田シーリング」と言われた水準でもあります。



【日足 エリオット波動分析】

これまで 152.854 円(9/8)を第 3 波のマル i 波としていましたが、これを改めます。

修正後の波動カウントによれば、155.156 円(8/3)からの第 2 波は「ランニング・フラット(マル a-マル b-マル c)」です。152.854 円からの上昇はマル c 波に相当します。

足元水準は 200 日 MA を若干上回っています。もっとも、200 日 MA は以前の強いサポートであり、今回は強いレジスタンスとしてマル c 波の上昇を圧迫するとみられます。マル c 波(及び第 2 波)の終了は近いでしょう。

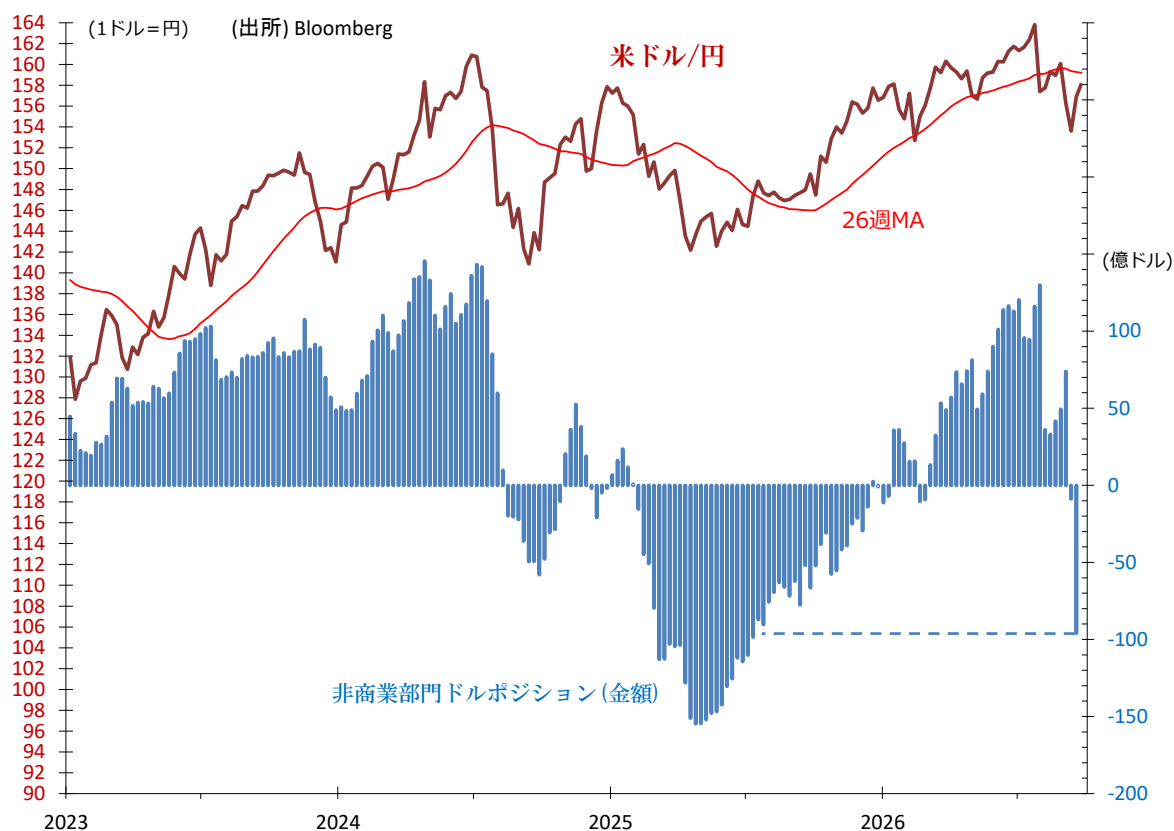
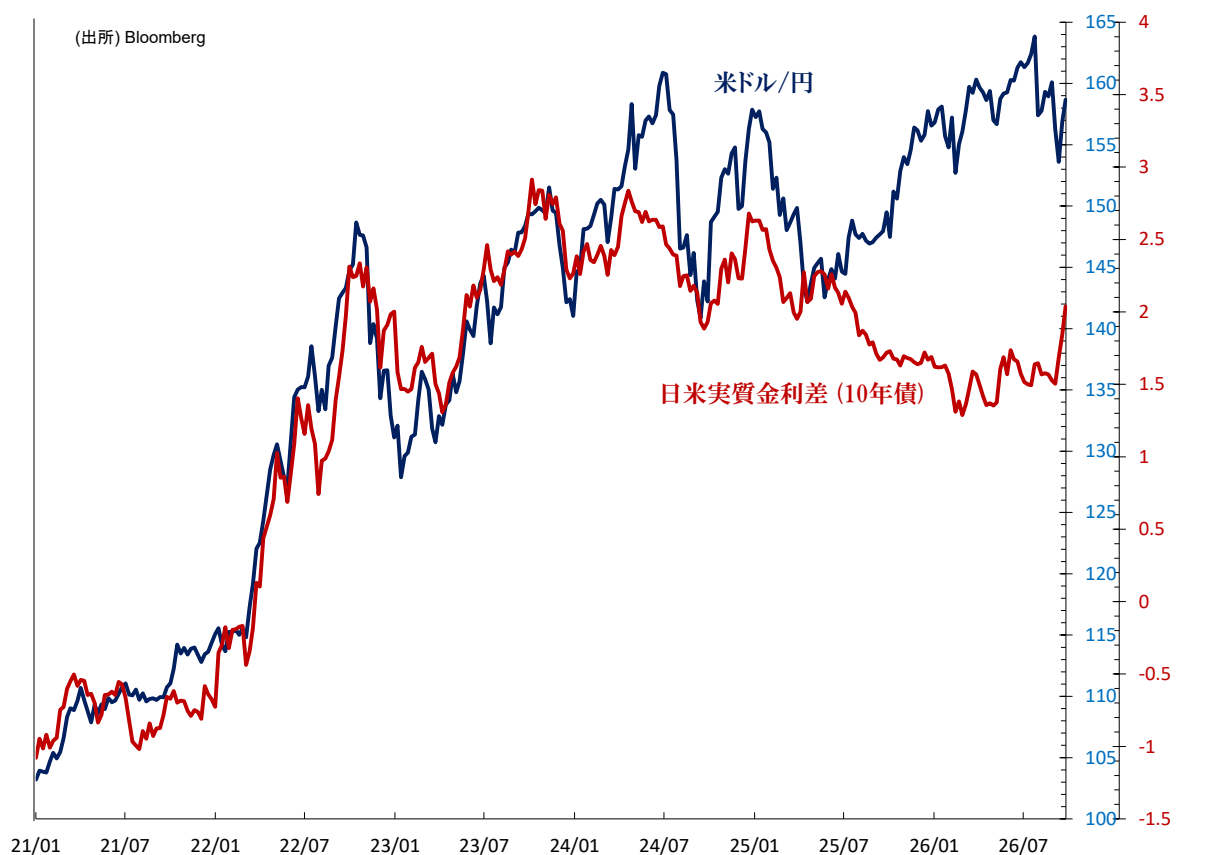
そうであれば、第 3 波の下げによる強いドル安・円高波動がまもなく到来すると想定されます。

第 3 波は 152.854 円を早々に下回り、152 円処を試すでしょう。152 円処は、25 年 4 月(139.577 円)からのドル/円上昇の半値戻り[151.910 円]に相当する上、今年 1 月 27 日の安値 151.994 円でもあります。また、7 月高値からの計算値[151.557 円]にも近いものです。

心理的節目の 150 円も視野に入り、その直下には 61.8%戻り水準[149.070 円]が控えています。ヘッド・アンド・ショルダーズからの垂直計算に基づくターゲットは「145 円-146 円」です。このターゲットが、10 月末にかけて達成される可能性に注目しています。

金利差からのドル/円推計値

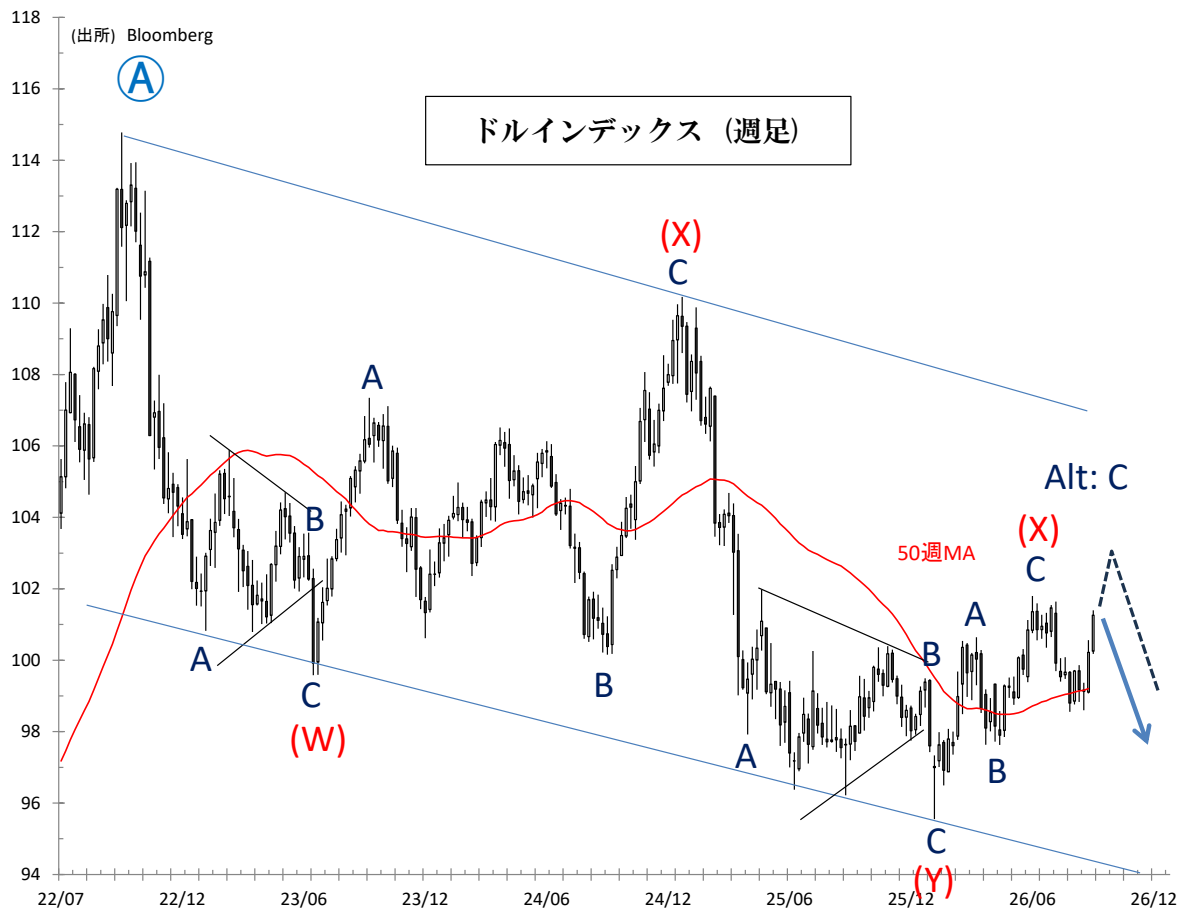
足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[147.908 円]です。



円買い越しが 25 年 7 月以来の高水準に (2026 年 9 月 15 日時点)

IMM 通貨先物市場で、投機筋(非商業部門)の円買い持ち高は、前週の 8.8 億ドルから 95.90 億ドルに大幅に拡大しました。円買い持ち高は 25 年 7 月以来の高水準です。

ドルインデックス (ドル指数)



【エリオット波動分析】

98.557(8/20)からドル高が続いています。足元では一時 101.398 まで上昇、これは 1 カ月半ぶりドル高水準です。

6 月高値 101.800 から、長期ドル安=(Z)波が展開しているという見通しはまだ有効です。この見方によれば、目先的にもドル高は終了し、ドル安基調が再開すると思われます。

もっとも 101.800 を上抜くと、波動カウントを変更しなければなりません。

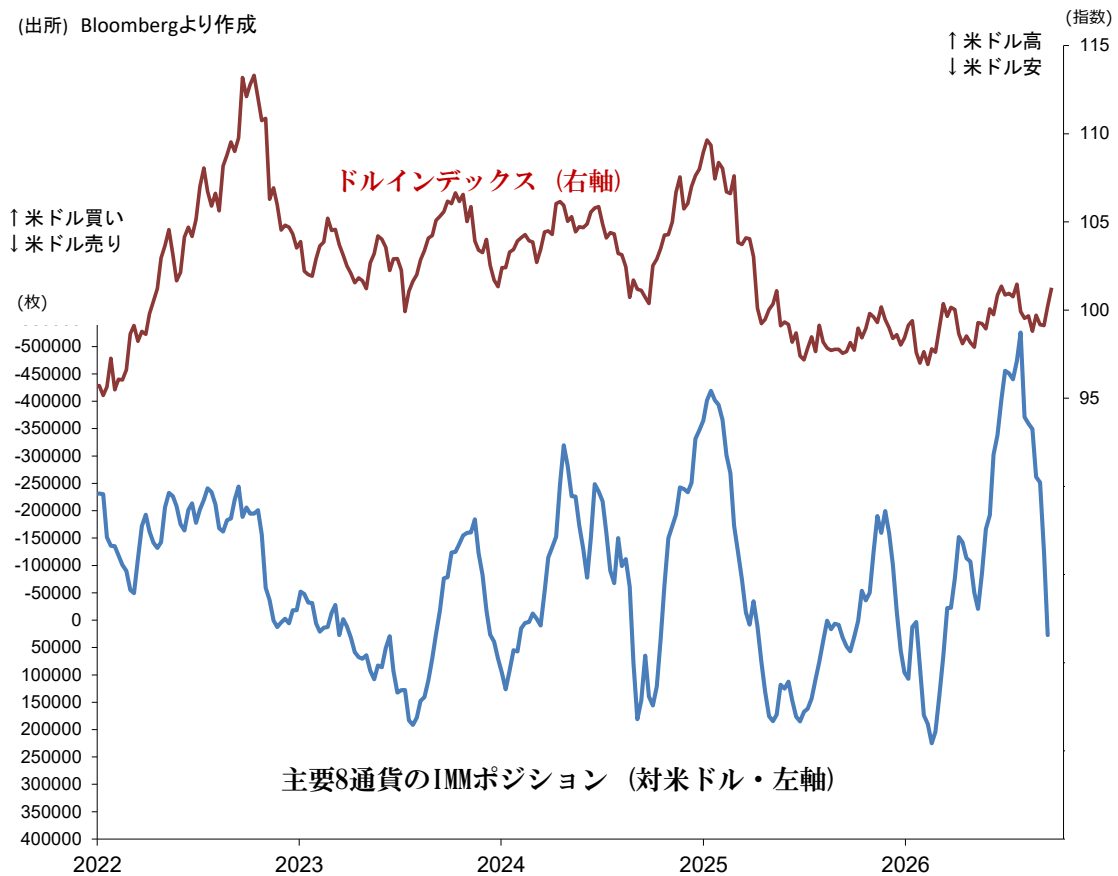
この場合は、今年 1 月からのドル高=(X)波が続いていることになり、102-103 へのドル高余地があります。もっともその後はドル安が再開するでしょう。

投機筋のドル合成ポジションが売り持ちに(2026 年 9 月 15 日時点)

投機筋によるドル合成ポジションは、前週 12 万 5046 枚のドル買い持ちから、2 万 7480 枚のドル売り持ちとなりました。ドル売り持ちになるのは 3 月 10 日以来です。



(出所) Bloombergより作成



※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4% 以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10% です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア